

自分を生かす

益田市立中西中学校 三年 大庭璃万

私は真珠腫という病気のため、右耳が悪く、何度も手術をしています。手術前は毎回、不安で押しつぶされそうになります。手術が終わっても、すぐには体が回復せず、体調のすぐれない日や、痛みが続き、毎回「なぜ自分だけこんなにつらい思いをしなくてはならないのか」と、自分のことがすごく嫌になったことも何度もあります。

しかし私はこれから先、高校生になっても、社会に出て大人になっても、ずっとこの病気と付き合い、手術をする必要があるのだと、病院の先生から言われました。その言葉を聞いたときは、「なんで私はこんな病気になったんだろう。」そう思いました。

私は保育園の時に中耳炎になってから、だんだん耳が悪くなっていきました。小学校六年生になるまでは益田の病院に通っていましたが、なかなか治らなかったので、山口の病院に行くことを勧められました。

山口の病院に初めて行ったときは不安でいっぱいでした。診察をしてもらうと、すぐに原因が見つかりました。今まで六年間、益田の病院に通っていたのは、いったい何だったのかという気持ちになりました。

何回か山口の病院に通ううちに、手術の予定が決まっていき、小学六年生の時に初めて全身麻酔の手術をしました。手術後はいつも体がつらくなりますが、初めての手術後が、一番つらかったように思います。耳の後ろに手術痕が残るので、周りの人の目が気になって、学校に行く気にもならず、実際に、しばらくは行くこともできませんでした。

それでも真珠腫という病気になってから、良いこともいくつもありました。

一つ目は周りの人が私の病気のことを理解し、支援しようとしてくれたことです。それを聞いただけでも、とても心強く思いました。

二つ目は、実際に周りの人が私の右耳が聞こえにくいことを気にかけてくれることです。友達が私に話しかけるときは、左側から声をかけるようにしてくれたり、先生方も、いろいろな場面で配慮してくれたりしています。例えば席替えの時は、人の声が聞き取りやすく授業に集中しやすい場所で、困ったときには友達に助けを求めやすい席になるよう、いつも相談して決めています。普段の生活で、おおげさにしているわけではありませんが、学校やクラスの皆が私の耳のことを気にかけてくれていると気付いたときは、とてもうれしい気持ちになります。

三つ目は中学校一年生の冬から「聞こえの通級指導」を受けていることです。通級といえは「自分の苦手なことを伸ばしていく活動をするところ」というイメージがあると思います。もちろん自分の苦手なことを伸ばすことも学びますが、私は最近の授業の様子などを通級の先生に話すことも大切にしています。そして、自分にとって、より生活しやすくなる方法や、授業に取り組みやすくなる方法などをいろいろ考えます。時には他校の、私と同じような生徒さんのさまざまな工夫を知ることもあります。病気や聞こえにくさに悩む人が自分だけではないことを知ると、少しだけ不安が和らぎ、自分もがんばろうという

気持ちになります。通級指導教室で新たなことを知り、自分について深く考え、今まで気付かなかった自分の一面を見つけることで、新たな元気が出るのです。

今も定期的に病院に通院しています。学校を休むことになるので授業についていくのが難しいと感じることもありますが、周りの人が気にかけてくれて、授業内容を教えてくれたり、「昨日こんなことしたよ。」などと話してくれたりします。

このように、中学校に入るまでは自分のことを責めるような思いがあった私が、中学校に入ってからは自分の病気を前向きに受け止めて生活しています。

これからも私は、自分の病気とともに生活していきます。通院や手術など、気の重いことはありますが、前向きに捉えることで、心の持ちようも変わると思います。

家族や友達など周りの人への感謝の気持ちや「そのときはつらいけれど、後で良い経験だったと振り返れるような体験」など、健康であれば気付いたり考えたりすることもなかった、さまざまな思いをもつことができました。部活動に全力で打ち込める時間がどれほど貴重か。気持ちが落ち込んでいるときにそっとしておいてくれる周りの人の思いやりがどれほどありがたいか。

「自分だけがつらい思いをしている」という気持ちに縛られるのではなく、「自分だからこそ見つけられる幸せな瞬間」や、「良かったと思える体験」を、これからも大事にしていきたいと思っています。